

次の3番目、公共交通の在り方についてですが、高齢者はもちろんのこと、交通弱者と呼ばれる方々にとって、日々の通院や買物に使うバスやタクシーは不可欠なものであります。可能な限り、より安全で気軽に利用できてかつ安価であることが望ましい。しかし、現在の路線バスは、本数が少なく、路線も限られており、利用できるバス停の数も限られています。市民からは、既成の路線バスではなく、小型バスでの市内循環システムなどを要望する声がありますが、古川市長はいかがお考えでしょうか。

また、現在、新居浜市では、おでかけタクシーの名称でデマンドタクシー事業が実施されていますが、使い勝手が悪い、対応が親切でないなどの御意見が多々寄せられており、事業内容の見直しが必要と私たちは考えております。

見直ししたほうがよいと考える点を幾つか挙げますと、JR新居浜駅を中心に結節点と表現していますが、川西、川東、上部西、上部東と新居浜市内を4地区に分けて、地区を越える利用に条件をつけています。また、基本的には路線バスのバス停から300メートル以内にお住まいの市民は、利用登録が制限されています。私たちは、市民なら誰でももっと気楽に利用できるデマンドタクシー事業に改善すべきとさきの市長選で訴えました。古川市長も、交通弱者の市民に寄り添ったデマンドタクシー事業にすることには賛同いただけるかと思いますが、いかがでしょうか、市長のお考えをお聞かせください。

○議長（小野辰夫） 答弁を求めます。古川市長。

○市長（古川拓哉）（登壇） 公共交通の在り方についてお答えいたします。

まず、通院バス、お買物バスについてでございます。

本年3月に策定いたしました新居浜市地域公共交通計画におきまして、市民生活を支える基幹公共交通軸及び支線軸として位置づけた路線バスとバス交通空白地をカバーし、基幹公共交通軸及び支線軸までをアクセスするデマンドタクシーを両輪として、新居浜市の公共交通を維持していくといたしており、基本的には、私もこの考え方を踏襲してまいりたいと考えております。

小型バスでの市内循環システムの導入につきましては、買物や病院などに安心して出かけることができる環境をつくるための手段として有効ではありますが、一方で運転手不足の中、多岐にわたる市民ニーズに沿ったルートや運行本数を確保することができるのか、デマンドタクシーの利用者とのすみ分けはどうするのか等の課題もございます。現在、新居浜市地域公共交通活性化協議会におきまして、市民の利便性を向上させるため、JRやデマンドタクシーとの接続を考慮し、効率的なバス路線の再編に向けた協議を進めていると報告を受けており、今後循環バスの導入も含めた公共交通網の拡充に努めてまいります。

次に、デマンドタクシーについてでございます。

選挙期間中、多くの方々からデマンドタクシーが不便だという切実な声をお聞きしました。デマンドタクシーは、バスとタクシーの中間に位置する公共交通であり、各事業者の経営を考慮しながら見直しを図り、地域交通を維持していく必要があるものと考えております。

また、デマンド交通とは、複数の予約をまとめることで、乗り合いをつくって効率を高めるものであり、行き先がばらばらで広域にわたると、迂回距離や乗車時間が長くなり利便性も悪くなることから、一定のエリア内に制限し、効率的な運行を図る必要がございます。

今後は、交通事業者等関係者とも協議しながら、デマンドタクシーの改善を進めるとともに、路線バス等他の公共交通との連携も含めて、市民がもっと便利に利用できる公共交通体系の構築を目指してまいります。

○議長（小野辰夫） 大條雅久議員。

○23番（大條雅久）（登壇）古川市長も既にお気づきだと思うんですが、おでかけタクシーがなぜ不便か、運転手さんが親切かどうかというのは置いて、それも結構言いたいことが市民からあるんだと言われましたが、例えば川西地区のデマンドタクシーは、イオンへ行けない。行けないというか、行く場所を決めてますから、目的をね、行く場所からなぜイオンが外れてるのか、よく分からない。これは全般的で、地域バスを新居浜市は古くから走らせてます。別子山から新居浜市内をつなぐバスです、御存じのとおりですが。市内のバス停の宣伝とか活用が十分でないと従来私は聞いてきたんですが、聞いてきたというのは、質問に取り上げてきましたが、変わりません。なぜか。タクシーもデマンドタクシー事業も地域バス事業も、既存のバス会社、タクシー会社に遠慮している。遠慮しているというよりも既得権を崩せないでいる。これに対してどういう対応をしていくかで次のスタイルが決まると思うんですよ。市長も18年、市議会議員、県議会議員をされてきて、お伺いしたい意味は分かるかと思うんですが、ここで既存の既得権をどう打破していくか、これが新しいスタイルをどうつくれるかにかかると思うんですが、今お考えになっていることがありましたらお聞かせください。

○議長（小野辰夫） 答弁を求めます。古川市長。

○市長（古川拓哉）（登壇）大條議員さんの既得権をどう打破するかという質問についてお答えをしたいと思います。

私自身は、既得権ということを守るのではなく、市民にとってどうすれば便利になるのかということを考えていきますとともに、やはり先ほどからお伝えしているとおりであります。ドライバーの不足であるとか、様々な事情も出てきております。そのような中で、市内の業者さ

んとは共存共栄を図りながら、どのようにしてより市民が便利に使っていただけるかということを念頭に置いて考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

○議長（小野辰夫）　大條雅久議員。

○23番（大條雅久）（登壇）　ぜひとも市民にとって使い勝手がいい、よかったなと思える新しい公共交通機関、交通弱者に優しいデマンドタクシー、地域バスを進めていただきたいと思います。